

# ショートカットキー充実

主なショートカットキー	
タグ(文字修飾)操作	
太字にする	Ctrl+B
ゴシックにする	Ctrl+G
ルビを付ける	Ctrl+R
末尾揃えにする	Ctrl+End
タグ囲み範囲選択	Ctrl+T
選択タグの編集	Ctrl+E
選択タグの削除	Ctrl+D
選択タグ全削除	Ctrl+Alt+D
1文字追い出し	Ctrl+O
紙面上素材の移動	
1段上下に移動	↑ / ↓
1行左右に移動	← / →
1文字分上下移動	Alt+↑ / Alt+↓
紙面上素材の拡大・縮小	
1行分拡大	Ctrl+L / Ctrl+R
1行分縮小	Shift+Ctrl+L / Shift+Ctrl+R
1文字分拡大・上	Ctrl+Alt+U
1文字分拡大・下	Ctrl+Alt+D
1文字分縮小・上	Shift+Ctrl+Alt+U
1文字分縮小・下	Shift+Ctrl+Alt+D
画像編集	
トリミング開始	Shift+Ctrl+Alt+T
画像の拡大 縮小	PageUp / PageDown
使用部分の移動	↑ ↓ ← →
トリミング終了	Enter
見出し編集	
見出し文の移動	Ctrl+↑ ↓ ← →
メイン画面	
紙面を全表示に	Ctrl+W
紙面を再描画する	F5
紙面内の全文検索	Shif+Ctrl+F
レイアウト操作	
仮空白の作成	Alt+Space
各種編集画面	
保存して編集終了	Shift+Ctrl+S
アクセラレーターキー(一部)	
紙面上の素材 共通	
紙面から削除	D(elete)
名前・グループ名の変更	N(ame)
グループ名一括変更	G(roup)
紙面上の素材 矩形	
雛形化した複製を作る	C→C
完全な複製を作る	C→A
素材を仮空白で置換	K
真下の段罫削除	Q→Q
紙面上素材 記事の操作	
再流し	X



操作を手早く行うショートカットキーが100種類以上用意されている。頻りに紙面を作成する場合、覚えれば大幅に作業効率が上がる。

特に一部ゴシックなど文字修飾のタグ用のショートカットは、記事編集画面、見出し、写真説明文で共通。ゴシックは [Ctrl+G]、ルビは [Ctrl+R] など覚えやすいキー設定になっている。また、タグの再編集や削除には、まず範囲選択が必要があるが、マウスのダブルクリックやドラッグよりも [Ctrl+T] を使えば一発で楽に選択できる。選択状態で [Ctrl+D] を押せばタグ削除になる。

紙面上で矩形の拡大・縮小・移動はマウスドラッグで可能だが、1行単位、1文字単位の微妙な操作だとキー操作の方が確実に行える。

記事、見出しなど各種の編集画面では特に [Ctrl+Shift+S] で一気に保存終了できる。箱組の中の写真を編集している場合など、ShiftとCtrlを押したままSキーを連打すれば、すべて保存終了した状態で紙面に戻れる。

作者が特にお勧めなのは、クリック位置から幅いっぱい仮空白を作る [Alt+Space] キー。トップの横見出し用の仮空白等はもちろん、食い込んだ矩形に幅ぴったり作成するときなど、レイアウト操作の強い味方になるだろう。

右クリックメニューでのアクセラレーターキーもMoveの[M]キーが移動、Nameの[N]が名前変更など、覚えやすくなっている。

また、例えば矩形を右クリックして[Q]を連打すると真下の段罫を削除、[C]を連打すると雛形化した複製を作れる。記事の右クリックから[K]での再流しは、レイアウト変更の際に便利。

雲の名は。①

積乱雲とは「強い上昇気流の影響で鉛直方向へ発達し、雲頂が時には成層圏下部にも達することがあるような、巨大な雲」(ウィキペディアから)のことと言いたい。さて、これは雲を写真として、ここに掲載している。作者が適当に撮った雲

もに紹介する連載、という体の箱組。作者は雲についてはまったくの無知なので、これ以上はウィキや気象庁サイトの丸写しにしかならない。そもそも、ここに掲載している作者が適当に撮った写真が本当に積乱雲なのかどうかすら自信がない。

こういう連載用の箱組は基本的に、大きさはもちろん、レイアウトも記事の行数、見出しの文字数も一定になる。このため、毎回イチから作るのにはさすがに効率が悪い。そうした際に役立つのが「雛形」機能である。

## 雛形化

紙面を含めたあらゆる素材は「雛形」として保存し、別の紙面で呼び出して再利用することが出来る。

雛形は単なる複製(コピー)と違い、例えば文字部分が「●」などの記号で置き換えられたりしたもの。一部を記入するだけで完成する。シンプルな複製だとうっかり変更を忘れるミスもあるが、雛形ならその心配はない。

見出しの場合は、文字部分のみを記号にした雛形が作成できる。複雑な地紋設定や、細かな割見出し指定など、手間が掛かる作業が最初だけで済む。

画像の場合は、例えば画像は仮画像に変換した上で、説明文は記号で埋めたり出来る。特に、マージンや説明文に色付けしている場合に雛形化しておくとうまく省ける。

そして上図の例にあるように、箱組も雛形化できる。新聞に毎号載せる連載などで便利。箱組の場合は、雛形化の専用画面で見出し・画像・記事ごとに、雛形化するか、単に削除するか、あるいはそのまま残す(複製)か細かく指定できる。特に画像に関しては、ラスタ画像とベクタ画像で分けて指定できる。上図の例

# 「雛形」登録で作業を効率化

## 箱組や見出し、画像も



では、連載タイトル「雲の名は。」をEMF画像で作成している。このため、タイトル部分は、回数表示だけを写真説明文で打ち込めば済むようになっている。

当然、紙面全体も雛形化できる。一般紙の一面のよう

うに、題字や紙面メニュー、コラムなど置き場が決まっているものが多い場合、とても便利だ。

なお同じ紙面の中でも「雛形化したコピー」を作ることができるので、紙面内限定の再利用もできる。

雛形として保存

雛形名: 入力用/仮登録/入力用

文字を単一記号にする

紙面内の素材

見出し:  雛形化  内容維持  削除

記事:  雛形化  内容維持  削除

画像:  雛形化  内容維持  削除

内容維持する画像種別:  emf  jpg  png  bmp

ラスタ:  雛形化  内容維持  削除

OK キャンセル

# 定期発行 強い味方

学校新聞や社内報など継続的な発行に役立つ機能が満載。一度作った紙面や箱組、見出し等の素材を、最低限の操作で再利用できる「雛形」機能。4頁建てなど複数頁を一気にプリンタで印刷できる「新聞印刷」。マウスいらずで編集操作が可能なキー設定も充実している。

# 「新聞」一気に印刷

## 複数頁センターワイドも



たとえば一面から最終面まで計8ページあるような新聞を、一気に印刷できる。表裏2ページはもちろん、4頁建て、8頁建てと、一般紙のように4の倍数になっているページ数なら、表裏印刷機能の付いたプリンタがあればよい。中央の2頁分を横長1頁にする、いわゆる「センターワイド」も印刷可能だ。

全ページの紙面を編集し終わったら、複数頁用の専用画面を開き、すべての紙面ファイルを選択して、ページ順を指定するだけでOK。プレビューではページ順のほか印刷そのまのイメージも確認できるので、間違いにくいだろう。

複数頁の情報ファイルとして保存できる。いったん指定しておけば、2度目は1枚の用紙に印刷し、その後、3・4面を半分サイズの用紙に表裏印刷して

印刷1枚目(表)

印刷1枚目(裏)

4頁建ての新聞を一気に印刷するためのプレビュー画面

ページ建てなど複数の組み合わせも保存可能。なお、6ページ建てなど中に半分サイズの「ペラ」が混じる新聞の場合は、まず1・2・5・6の計4面分を1枚の用紙に印刷し、その後、3・4面を半分サイズの用紙に表裏印刷して

挟む。そんな工夫で「新聞」が完成する。ただ、例えばA4サイズ4ページ以上の新聞を印刷する場合、その2枚分、つまりA3対応のプリンタが必要になる。対応プリンタがない場合、プリンタの縮小印刷機能を使う。

操作に関しては、自分の使い勝手の良いように、ある程度は好みの環境に変えられる。「動作環境の設定」画面で設定する。

まず、記事作成時にデフォルトで外部のエディタを起動するよう指定できる。さらに、必ず起動する特定エディタの指定も可能だ。

付属の記事エディタは、新聞独自の禁則処理に対応した行数管理や、さまざまなタグ操作ができる機能が備わっているが、文章を打つエディタとしては最低限の機能しかない。長い記事

## 記事好みのソフトで作成・編集 画像

を頻りに書きたい人は、気に入ったエディタをいつも使えば便利だろう。野線を引き際には、初期設定では、まず野線の選択画面が開く。しかし、いつもだいたい同じ野線を選ぶのなら、あらかじめ決めておくことも出来る。いちいち野線選択しなくて済む。また、画像の細かな色合い調整など外部ソフトを頻りに使うのなら、画像編集画面から常に同じアプリを呼び出すように出来る。このほか、編集時の自動保存のタイミングや、仮空白ダブルクリック時の挙動などを選べる。

このPDFはCCライセンスで配布され、営利・非営利を問わず自由に利用できます。改変は不可です。

PDF出力でコンビニ印刷

プリンタがなくコンビニ等で印刷したい場合、PDF出力が利用できる。印刷時、プリンタとしてPDFプログラムを指定するだけ。表裏印刷できない旨のメッセージが出るが、そのまま作成。ページが区切られた形でPDFが作成される。

コンビニでは、PDFを入れたUSBメモリなどを使い、表裏印刷の指定をして実行する。なお4頁を超えるものは、2つ以上のPDFを用意する。

(作者は一部のコンビニでのみ実際にテストしている)